

ロンギチュード 131° (Longitude 131°)

時間を超越してその豊かさを増していくロンギチュード 131° (Longitude 131°) は、ウルル カタ ジュタ国立公園を見渡す場所にあります。この国立公園はオーストラリアの広大なレッド センターに位置し、世界遺産に登録されています。

ラグジュアリーなパビリオンからなるロンギチュード 131° では、オーストラリアの精神的な中心地、砂漠の風景に感じられる真の静寂と美しさ、豊かな文化、遺産と歴史などをテーマにした、貴重な体験を提供しています。

開拓者の精神を受け継いで、サファリストイルのテント付きパビリオンは、赤錆色の砂丘を越えてやってくる現代の旅行者たちのために、スタイル性と持続可能性を両立して再現されたものです。変化する光が作り出す、ウルル (エアーズ ロック) の唯一無二の景色は、ベッドの中からも、バルコニーからでも、冷たい夜の空気の中に張られた暖かいスワッグの中からも見ることができます。現代的な調度品、先住民のアーティストによるアート作品、グルメな軽食が詰まったスイート内のバーは、この土地に対する粗野なイメージを一掃します。ロンギチュード 131° への滞在中の一番の楽しみは、ロッジの個人ガイドが同行する、ウルル カタ ジュタの探索でしょう。ゲストはこれらの体験を通じて、この砂漠の象徴的スポットの裏話を知ることができます。また、自然遺産としての知識だけでなく、この土地の伝統的な管理者であるアナング族に伝わる古代の創造の物語を知ることができます。

ラグジュアリーな砂漠のベースキャンプ、ロンギチュード 131° の中心部には、眺めの良さと片持ち屋根が特徴の「デューン ハウス」があります。ここでは、のんびりと寛いだり、カクテルを飲んだり、刻々とその色を変えるウルルを眺めたりして過ごすことができます。オーストラリアの精神的な中心地であるウルルを眺めながら、地産の食材と、国内の質の高い生産者による食品とワインを組み合わせた、上質な料理を堪能できます。アウトバックで冒険を楽しんだ一日の終わりには、「スパ キナラ」で先住民の文化に着想を得たトリートメントを受けたり、「デューン トップ」で驚くほど美しいウルルとカタ ジュタの夕日に染まる景色をドリンク片手に眺めたりして過ごせます。



- ✈️ 最寄りの国内線空港: ウルル
- 🕒 ロッジまでの所要時間: 車で 15 分
- ✈️ 最寄りの国際線空港: シドニー
- 🕒 ロッジまでの所要時間: 飛行機で 3 時間 + 車で 15 分
- 🏠 スイート: 16 室
- 👤 10 歳以上のお子様同伴で宿泊可能



📍 所在地: アナング カントリー

おすすめポイント

現存する世界最古の文化とつながり、オーストラリアのレッド センターにある、世界遺産に登録された象徴的な自然の産物が刻々と姿を変える様子をご覧ください。

旅のヒント

- ・ このカントリーと、象徴的なウルル、カタ ジュタ、砂漠の景観とのつながりを感じましょう。日の出の時間帯に行われるガイド付きのウォーキングツアーに参加できます。
- ・ 太陽が水平線の下に沈み、夜空にビーナス ベルトというピンク色の帯が現れてその美しい光が砂漠を照らす光景を、「デューン トップ」の温水プランドジ プールに浸かりながら眺めてみましょう。
- ・ 夕食後は、宿泊するラグジュアリーなテントに戻り、特別に用意された温かい特製スワッグに入って、星が煌めく南国の空の下で就寝前一杯を楽しむのも良いでしょう。
- ・ ロッジ周辺の赤い砂の砂丘を走るモロクトカゲを探してみてください。このトカゲは、生き残り戦術として頭から足の先までが保護色になっており、皮膚から水分補給をすることもできます。

ロンギチュード 131° (Longitude 131°)
Uluru, Northern Territory
連絡先: +61 (0)2 9918 4355
または reserve@baillielodges.com.au
luxurylodgesofaustralia.com.au/longitude131

- 📘 [longitude131](#)
- 📷 [longitude131](#)
- 🐦 [BaillieLodges](#)



「ノーザン テリトリーのロンギチュード 131° では、『デューン パビリオン』の正面に見えるウルルと、その右側に見えるカタ ジュタの両方の風景を楽しめます。これほど心を癒し、時間を忘れさせる光景は、ほかに思いつきません。それはまるで、絶え間なく変化し続ける光を背に、この世界のあらゆる赤色を照らし出すかのようなのです。スピニフェックスの茂みには、素早く動き回るゴシアカウサビワラビーの姿を見ることが出来ます。今すぐにもまた訪れたい場所です」

Susan Kurosawa, The Australian

